

# 集団を通じたユースワーク

京都市ユースサービス協会・事業部長 水野篤夫

ユースワークにおいてグループワークという考え方や手法は重要な柱です。そこで、今回はユースワークとグループワークの関係について取り上げます。

## 「グループワーク」への誤解

最近、さまざまな場面でグループワークという言葉を見聞きすることがあると思います。しかし、そのほとんどが、グループワークを誤解したり、そのある一面だけを捉えた使い方をされたりしているように思い、違和感を覚えています。市民活動や若者と関わる現場で経験を積んだ人ですら、グループワークという言葉が誤解されている場合があるのですが、その典型は、何か小グループで活動や「ワーク」(※1)を行うこと。グループワークとしてしまっている使用方です。確かに、グループワーク(作業)させるのだからグループ・ワークで、間違いでは無いのですがね……。



おしゃべりしながら……

グループワークというのは、元々、ソーシャルワークの一つの手法であり、(小)集団での活動でその力を用いて、メンバーである個人が課題解決に向かったり、成長につながったりすることを後押しする考え方や方法として、経験が蓄積されてきたものです。アメリカやヨーロッパで開発されたグループワークは、戦後日本に紹介され、「民主的な教育活動の原理・方法」といった形で青少年団体の指導者養成に組み込まれたり、福祉現場にも取り込まれ

たりしてきました。グループワークについての学問的な研究も、それに従って進められました。しかし、グループワークにおいて中心的な役割を果たす、グループワーカーを育てる十分な環境が整えられなかったこともあり、グループワークの有効性が実証されず、それに伴って徐々に研究も低調になってしまいました。その結果が、現在のようなグループワーク。グループワークをすること、グループワーク。便利な集団処遇という誤解を生む基になったといえるでしょう。

## グループワークの実践例

では、グループワークとはいったい何なのか? 「集団の力を生かしてメンバーの課題解決につながる」とは、具体的にどういうことなのか? ちょっとと事例を取り上げて説明してみたいと思います。以下は、高校生が作るフリーペーパー編集会議のシーンです。

(さ) 普段、気になっていることで、とりあげたいことがある? (まりこ) 「変(へん)」って言われる。普段言われて気になっている……みんなよく使うけど。普通とポーターって何? 「変」って何? (マ) そんなんなあ……。何かふざけて見せようとする (さ) ちょっと静かにし! (植野) ゆっくり言ってみなよ。

(まりこ) 私、学校で変わってると言われる。それがすごく嫌で。さとこちゃん(双子の妹)は嬉しいみたい。だけど、私は嫌だから。「変って何」って聞きたい。(ゆ) なんか抽象的だよ。(話を続けたくない様子) (まりこ) 最近、普通になってきたって友だちに言われる。それで傷ついた。じゃあ普通って何?(少し興奮気味に一気にしゃべる感じ) (きよう) なんかこのコーナーより、特集のテーマの方がいいと思う。(さ) 「普通って何?」みたいな感じかな。(植野) 謝らなくていいよ。(きよう) そうだよ!



真面目な顔、笑顔、考えている顔

(さ) 特集で考えるか? (ゆ) 抽象的すぎないか……。 (ワーカー) そうだね、じゃあ、まりこちゃん、今の分担と並行して自分の思っていることを具体的に伝える準備をしてみようか。(まりこ) えーっ、言うんですか? 苦手だな。(植野) 口で言うのが嫌だったらメモでもいいよ。(きよう) そうしなよ!(その他の役割分担、詳細を決めていくことに……)

ここで起こっていたことは、話の内容だけを見れば、「高校生たちがフリーペーパーの内容を話し合っただけ」である。この過程で起こっていた、メンバー間の感情や価値観のやりとりに注目する必要がある。ここで何人かは、まりこの発言をあまり重視しない反応をしますが、植野やきよう等ははっきりとまりこが発言し続けるよう支持します。普段は引込み思案なまりこですが、自分の感じる違和感について取り上げ記事にしていくよう、ユースワーカーにも促されて言語化していくことになり。そのことは、まりこにとつてのチャレンジでもあります。このメンバーがグループの力を生

かして「変って何? (学校で変わってと言われることの意味は?)」逆に、「普通って何?」ということを通して自分事として考えるきっかけになっていきます。ここでユースワーカーは、自由に高校生たちが話しやすい場づくりをすること、まりこの発言を支持し企画としてまとめるよう方向付けをします。学校や学年も異なる高校生たちが集まって、自己表現出来る場づくりをすることが、この取り組みの趣旨なのですが、普段はふざけてばかりいる彼/彼女らが、急に集中して課題に向き合う場面が出てきます。ユースワーカーはそうした場面を捉えてメンバーの経験の機会につなげていくのですが、こうした一連の関わり全体がグループワークの一例だと言えます。

## ユースワークとグループワーク

ユースワークは、「若者が楽しさ、挑戦と結びつけられた学びと実践を通して、自分自身や他者および社会について学んでいくことを手助けする」ことです(前号参照)。若者が育っていく中で、家族を離れた集団に属していくことが大きな意味を持つので、ユースワークも集団・グループを通じた関わりがとても重要なものとなります。そこで、集団の持つ力への理解、その

中で起こっていることを観取すること、メンバー同士が相互援助しあうための後押しの方法など、グループワークの技法は大きな武器となります。単に楽しくプログラムが進めばいい、メンバーの葛藤が避けられればいい、ということではなく、メンバー(若者)の挑戦を促し続ける場として、グループを生かしていくことがユースワークと重なり合うグループワークの考え方なのです。

## まとめ

どうでしょうか。最初に述べたグループワークへの誤解という問題を理解していただけたでしょうか。グループワークはユースワークにとっても大きな領域なのですが、グループワーカーとしての技法を学ぶことは日本では難しい現状があります。そしてそれ故に、グループワークが矮小化されて捉えられていく。再度、グループを若者の成長につなげていく方法論として注目していくとともに、実践を積み重ねていくことが必要だと考えています。

※写真は本文の事例とは直接関係ありません。  
※1 ここでいうワークは、「ワークシヨップ」という方法の一部分としてイメージされています。